

九州・沖縄母子保健研究ベースラインデータの結果 喫煙及び受動喫煙と妊娠中うつ症状有症率との関連

背景：過去の疫学研究で喫煙がうつ症状のリスクを高めることが示唆されています。一方、受動喫煙とうつ症状との関連を調べた疫学研究は少なく、結論は得られておりません。本邦では喫煙及び受動喫煙と妊娠中うつ症状との関連に関する疫学研究は実施されていません。

方法：九州・沖縄母子保健研究のベースライン調査に参加した 1745 名の妊婦さんを対象としました。Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) の 16 点以上をうつ症状有りと定義しました。年齢、妊娠週、居住地域、子数、家族構成、うつ既往、うつ家族歴、職業、家計の年収、教育歴を交絡因子として補正しました。

結果：妊娠中うつ症状の有症率は 19.2% でした。能動喫煙について、これまで全く喫煙していない非喫煙群に比較して、過去に喫煙していた群では約 1.4 倍妊娠中うつ症状の有症率が高まり、現在喫煙群では約 2.5 倍妊娠中うつ症状の有症率が高まりました。能動喫煙の累積曝露量との関連を調べたところ、非喫煙群に比較して、3.0-7.9 パック年では約 1.6 倍妊娠中うつ症状の有症率が高まり、8.0 パック年以上では約 2.0 倍妊娠中うつ症状の有症率が高まりました。非喫煙者である 1183 名を対象として受動喫煙との関連を調べたところ、家庭での受動喫煙の無い群に比較し、現在家庭内受動喫煙有り群では約 1.5 倍妊娠中うつ症状の有症率が高まりました。過去に家庭内受動喫煙有り群では関連がありませんでした。職場での受動喫煙の無い群に比較し、現在職場での受動喫煙有り群では妊娠中うつ症状の有症率が約 1.8 倍高まりましたが、統計学的に有意ではありませんでした。過去に職場での受動喫煙有り群では関連がありませんでした。

表 1. 能動喫煙との関連

		有症率 (%)	補正オッズ比
喫煙状況	非喫煙	196/1183 (16.6)	1.00
	過去喫煙	118/503 (23.5)	1.39 (1.06-1.83)
	現在喫煙	21/59 (35.6)	2.49 (1.36-4.45)
パッケ年	非喫煙	196/1183 (16.6)	1.00
	0.05-2.9	45/207 (21.7)	1.18 (0.80-1.72)
	3.0-7.9	56/222 (25.2)	1.55 (1.08-2.22)
	≥ 8.0	38/133 (28.6)	1.97 (1.26-3.03)
	傾向性 P 値		0.0005

表 2. 受動喫煙との関連

		有症率 (%)	補正オッズ比
家庭受動喫煙	無	48/351 (13.7)	1.00
	過去	72/436 (16.5)	1.18 (0.79-1.78)
	現在	76/396 (19.2)	1.51 (1.003-2.30)
職場受動喫煙	無	73/503 (14.5)	1.00
	過去	99/550 (18.0)	1.05 (0.74-1.50)
	現在	24/130 (18.5)	1.75 (0.995-3.01)

結論：能動喫煙及び家庭内受動喫煙は妊娠中うつ症状の有症率上昇と関連しているのかもしれない。

出典： Kawasaki Y, Miyake Y, Tanaka K, Furukawa S, Arakawa M. Smoking and secondhand smoke exposure and prevalence of depressive symptoms during pregnancy in Japan: Baseline data from the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. *Tob Induc Dis.* 2017; 15: 34.